

論文審査の要旨および担当者

愛知学院大学

報告番号	甲 乙 第578号	論文提出者名	西永英司
論文審査 委員氏名	主査 千田 彰 副査 松原 達昭 嶋崎 義浩 富士谷盛興		
論文題名	唾液による総合的な口腔検査法の開発－多 項目唾液検査システム (AL-55) の有用性につ いて－		

インターネットの利用による公表用

本研究は、従来にない多項目一括短時間検査である唾液検査システム（以下 AL-55 とする）の臨床応用に際し、その有用性を検討したものである。

AL-55 は、う蝕、歯周病、口腔清潔度に関与すると想定される 7 項目の唾液因子を測定する試験片を貼付したストリップ状試験紙および、試験紙の色調変化を検出する測定機器より構成されている。

今回申請者は、多くの生体情報を有する唾液に着目し、新規に開発した AL-55 の有用性について、う蝕、歯周病、口腔清潔度に関する口腔内の検査結果との相関解析、および従来の分析法による測定結果との比較検討を行い、以下の知見を得ている。

1、AL-55 による検査結果と口腔内の検査結果に有意な相関を認め、AL-55 による測定が、う蝕、歯周病、口腔清潔度などの口腔内状態の把握に有効であることを明らかにしている。

2、7 項目の唾液因子に関する従来の分析法による測定結果と、AL-55 による測定結果との相関を解析した結果、全 7 項目について有意な相関を認め、AL-55 の測定値の妥当性および信頼性を見出している。

このように本研究は、AL-55 について口腔内の検査結果との相関解析と従来の検査法との比較（測定値の妥当性および信頼性）の 2 面から検討している点が特色といえる。これらの結果は、患者管理の治療方針のもとで予防あるいは治療を行っていくために、その疾患の発症原因やリスクを測定、評価していくうえで、極めて重要な知見を得たといえる。

また、臨床応用に際し、AL-55による測定結果を3段階に層別し、患者にとってより理解しやすい結果を提供するという検討も行っている。ここでは、従来の分析法との一致率に加え、医科で広く応用されている尿検査の段階層別と比較検討を行うなど、内科学的考察を加えている点も意義深い。

さらに、多項目一括短時間検査という利点を活かした学校や企業での歯科健診や、介護施設などの入居者に対する口腔のケアや入院患者の周術期の口腔健康管理への応用など、広く口腔衛生学的視点からその展開に関する考察を加えており、本研究の患者教育・管理型の医療への転換への貢献度は高いといえる。

以上のことから本研究は、歯科保存学、内科学、口腔衛生学および関連諸学科に寄与するものと期待される。よって、本論文は博士(歯学)の学位授与に値するものと判定した。